

練習問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

八月も終わりになった。

信子はあす市の学校の寄宿舎へ帰るらしかった。指の傷が治ったので、天理様へお礼に行つてこいと母に言われ、近所の人に連れられて、そのお礼も済ませてきた。その人がこの近所では最もネツシンな信者だった。

「荷札は？」信子の大きなこうりをシバつてやつていた兄がそう言った。5

「何を立つて見とるのや。」兄がおこつたようにならかうと、信子は笑いながら探しに行った。

「ないわ。」信子がそんなに言つて帰つてきた。

「いや、まだたくさんあつたはずや。あのひきだし見たか。勝子がまたしまいこんどるんやないかな。いっぺん見てみ。」兄がそんなに言つて笑つた。勝子は自分のひきだしへごくくだらないものまで、拾つてきてはしまいこんでいた。10

「荷札ならここや。」母がそう言つて、それ見たかというような軽い笑顔をしながら持つてきた。

「やつぱり年寄りがおらんとあかんて。」

兄はそんなジョウアイのこもつたことを言った。

晩には母が豆をいっていた。

「峻さん。あなたにこんなのはどうですな。信子が寄宿舎へ持つて帰るおみやげです。一升ほど持つて帰つても、じきにぺろっとなくなるのやそうで……。」

峻が話を聞きながら豆をかんでみると、裏口で音がして信子が帰つてきた。

②「貸してくれはったか。」

「はあ、裏へ置いといた。」

「雨が降るかもしれないで、ずっと中へ引きこんでおいで。」

「はあ、引きこんである。」

「吉峰さんのおばさんがあしたお帰りですか……。」

信子は何かおかしそうにことばをとぎらせた。

「あしたお帰りですか？」母が聞き返した。

吉峰さんのおばさんに、「いつお帰りです。あしたお帰りですか。」と聞かれて、信子がまごついて、「ええ、あしたA。」と言つたという話だった。母や彼が笑うと、信子は少し顔を赤くした。

借りてきたのはうば車だった。

「明日一番でたつのを、こうり乗せて停車場まで送つていってやります。」

母がそんなに言つてわけを話した。

たいへんだな、と彼は思つていた。

「勝子も行くて？」信子が聞くと、

「行くのやと言つと、今夜は早うからおやすみや。」と母が言った。

彼は、朝が早いのに荷物を出すなんてめんどうだから、今夜のうちに切符を買つて、先へ手荷物で送つてしまつたらいいと思つて、

「ぼく、今から持つていきましようか。」と言つてみた。一つには、彼自身身体裁屋なので、年ごろの信子の気持ち先まわりしたつもりであった。しかし母と信子があまり「かまわない、かまわない。」というのであちら任せにしてしまった。

夏の朝の明け方を三人で、ひとりほうば車をオし、ひとりはいでたちをしたひとり手に手を引かれ、停車場へ向かつていく、その出発を彼は心に思い浮かべてみた。美しかった。

20

15

25

35

30

40

45

「おタガいの心の中でそうした」**B**をあてにしているのじゃなからうか。そして彼は心が清く洗われるのを感じた。

(梶井基次郎 『城のある町にて』)

*1こくり||柳や竹で編み、衣類などを納める直方体の入れ物。

問一 線⑦のかたかなを漢字に直しなさい。

| | | | |
|---|---|----|---|
| ㊦ | ㊧ | | |
| し | い | って | ㊨ |
| お | | | |
| い | | | |

問二 線①「そのお礼」とありますが、どんなことに対するお礼ですか。

問三 線②「貸してくれはったか」とありますが、何を何のために借りたのですか。

問四 **A**にあてはまる言葉として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 帰ります
- イ お帰りです
- ウ 帰るはずです
- エ お帰りになるはずです

問五 線③「年ごろの信子の気持ちを先まわりした」とありますが、「彼」は、信子の気持ちをどのように推察したのですか。三十五字以

内で具体的に書きなさい。

| | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

問六 線④「あちら任せにしまった」とありますが、どんなことを任せましたのですか。

問七 線⑤・⑥・⑦の「ひとり」は、それぞれだれのことですか。文中の言葉で答えなさい。

| | | |
|---|---|---|
| ⑤ | ⑥ | ⑦ |
|---|---|---|

問八 **B**にあてはまる言葉として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 出発のあわただしさ
- イ 出発の寂しさ
- ウ 出発の楽しさ
- エ 出発のむなしさ

問九 この文章は、大きく二つの場面に分けることができます。後半の場面の初めの五字を文中から書き抜きなさい。

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | | |
|--|--|--|--|--|

第10 講座 古文(1)

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

昔、孫叔敖*1といふ人、幼少の時に、外へ出でて遊びければ、二つの頭*2のある蛇*3を見たり。日本にいふ日*4ばかりのたくひなるべし。その時に、その子の母が、「なんぢはいかなる子細ありてか、かくものを食はずして泣くぞ。」と問ひけるほどに、叔敖*5こたへていはく、「今日われ両頭の蛇を見ければ、明日まで命を延ぶべからず。」と言ひけるを、母もとより世にすぐれたる人なれば、ほかの事を聞き入れずして、まづ「その蛇はいづちにかある。」と問ふ。叔敖*6がいはく、「両頭の蛇を見るものはかならず死すと、日ごろより聞きおよびしゆゑに、他人のまたこれを見ん事をおそれて、地に埋みける。」と言ふ。母、この言を聞きていはく、「うれふることなかれ。なんぢは死ぬまいぞや。そのゆゑは、人として陰徳*7あれば陽報あり、天はたかけれども、ひきき地のことをよくきけり、徳は不祥*8にかち、仁は百禍*9をのぞく、といふ事あれば、なんぢは死せぬのみならず、あまつさへ楚国*10におこらん。」と言ふ。成人してのちに、はたして令尹*11といふ官人になれり。

(『実語教童子教諺解』)

- *1 孫叔敖 〓 楚国の人。 *2 蛇 〓 へび。
- *3 日ばかり 〓 小形の蛇。かまれたらその日ばかりの命しかないと思
- じられたことからこの名があるが、実際は無毒。
- *4 その時 〓 家に帰った時。 *5 陰徳 〓 隠れたよい行い。
- *6 陽報 〓 明らかない報い。 *7 不祥 〓 よくないこと。
- *8 おこらん 〓 出世するだろう。 *9 令尹 〓 楚国の最高位の大

問一 文中から抜き出した次の語句のうち、歴史的かなづかいと現代かなづかいが同じものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア なんぢはいかなる
- イ 問ひけるほどに
- ウ こたへていはく
- エ 聞き入れずして

問二 線①「ものを食はずして泣くぞ」とありますが、泣いている理由として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 明日もかならず蛇に襲おそわれると思ったから。
- イ 自分のせいで母親が命を落とすと思ったから。
- ウ 自分は間もなく死んでしまうと思ったから。
- エ 蛇が長くは生きられないだろうと思ったから。

問三 線②「地に埋みける」とありますが、叔敖がこのようにしたのはなぜですか。現代語で二十五字以内で書きなさい。

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

問四 この文章の内容と合っているものを次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 叔敖は優れた人格を持っていたので出世した。
- イ 叔敖は蛇の恩返しのおかげで大臣になった。
- ウ 叔敖は母の言いつけを守ったので出世ができた。
- エ 叔敖は蛇を退治した功績によって高い地位を得た。

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

*1 左近将監源乘邑朝臣、東の執事職にて勢ひ猛なりし頃、都へ登るとて

*2 近江の国草津と云ふ所を過ぐるに、此所の姥が餅といへるは、昔より名

高き家にて在りしを、そこに立ち寄りて、いささか旅の疲れを休められ

けるに、内より例の姥出づるを見れば、齢七十に近きが、腰は蝦のやう

にかがまり、黒き顔に白き髪のかかりたるを、片手にてかきやりつつ、

*3 古き高坏の欠け損じたるに、餅を盛り入れて捧げ出でたり。「此の餅は清

きか。」と問はれければ、姥面をふり上げて、殿には目をふさぎてきこし

めせ。世の中に何かきたなきものは侍らん。あまりにふかく求むれば、

清きと申す物は候まじといひしかば、賤しき姥なれども、かしこくも我

を諫めけるかなと、深く感ぜられしとぞ。

(『落栗物語』)

*1 左近将監源乘邑朝臣 松平乘邑。左近将監と称した。「朝臣」は、

敬称。

*2 執事職 官職名。

*3 近江の国草津 現在の滋賀県草津市。

*4 高坏 平皿に高い脚を付けた食器。

*5 諫めける いましめた。

問一 線①「名高き家」とありますが、どんなことで有名なのです

か。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 位の高い客が来ること。

イ おいしい餅を出すこと。

ウ ゆっくりと休めること。

エ かしこい姥がいること。

問二 線②「此の餅は清きか」とありますが、源乘邑がこのように

姥に聞いた理由として最も適当なものを次のうちから選び、記号で

答えなさい。

ア 姥の白い髪が餅に入っていることに気がついたから。

イ 姥が餅に古い食器のかけらを付けて出してきたから。

ウ 姥の様子や持参した食器が不潔な感じがしたから。

エ 姥が自分を利用するために餅を出したと思ったから。

問三 線③「きこしめせ」の現代語訳として最も適当なものを次の

うちから選び、記号で答えなさい。

ア 召し上がれ。 イ お聞きなさい。

ウ 催しなさい。 エ お休みなさい。

問四 文中に姥の語っている部分があります。その初めと終わりの三字

を書き抜きなさい。

Blank boxes for writing answers to Question 4.

問五 姥の語っていることは、どんなことですか。現代語で簡潔に説明

しなさい。

Blank boxes for writing answers to Question 5.

問六 線④「深く感ぜられし」とありますが、源乘邑はどんなこと

に感動したのですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で

答えなさい。

ア 他人への悪行は隠してもすぐ明らかになるということ。

イ 老人の主張に同調すると思わぬ失敗をするということ。

ウ 何事も深く求めないと真理には到達しないということ。

エ 賤しい姥でも道理にかなった忠告をするということ。

練習問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある人正月の支度として、麻袴*1を新しく作り置きけるを、ねずみ肩かたを食たひ破りしを、妻などは心にかけて、その家臣などは怒りののしり①、「憎にくきねずみの仕業しわざかな。ねずみ狩がりせむ。」と、ひしめきけるを、主まかたく制として、「ねずみは糊のりあるものを食たひがちなり。食事をあてがはざるゆゑ、かかるともなしなむ。②さらに心にかくべきことにあらず。今より食事5与あたへよ。」と切せつに申しつけ、「ゆめゆめねずみ狩がりなどすまじ。」とかたく申しつれたり。かかる男なるゆゑや、ほどなく仕合あはせもよろしく、またねずみもかかる悪事後々はなさざりしとや。

(根岸鎮衛『耳囊』)

*1 麻袴 || 礼服。

*2 ひしめきけるを || 集まって騒さわぎ立てていたのを。

*3 ゆめゆめ || 決して。

*4 仕合はせ || 事のなりゆき。

問一 —— 線①「ののしり」の意味として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 冷笑して。
イ 泣きさけび。
ウ 評判になり。
エ 大声で騒さわぎ。

問二 —— 線②「かかるともなしなむ」という意味ですが、どのようなことを指していますか。「〜こと。」に続くように、現代

語で十五字以内で書きなさい。

| | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

こと。

問三 —— 線③「さらに心にかくべきことにあらず」の意味として最も

適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 全く気にするべきことではない。
イ いっそう用心することが必要である。
ウ もう一度こらしめるべきことだ。
エ 決して覚えておく必要はないだろう。

問四 この文章の内容と合っているものを次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 主人は、日ごろから動物を大事にする人だったので、妻の忠告を受け入れてねずみに食事を与え、ねずみを飢うえから救った。
イ 主人は、冷静な判断力と優れた実行力をもっていたので、ねずみ狩りをする事によって家臣たちの怒りを抑おさえた。
ウ 主人は、悪さをしたねずみに、思いやりの心と道理になかった態度で接したので、ねずみはその後悪さをしなくなった。
エ 主人は、家臣たちの訴うえに対して機転うのきいた答え方をしたので、家臣たちは主人の賢かさに感心した。

